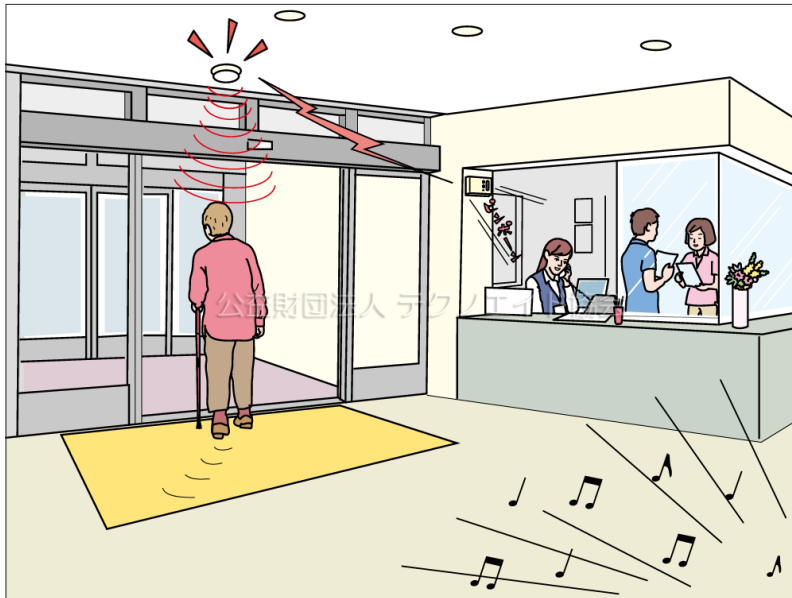


Case : 359

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



利用シーン

その他

主な利用場所

玄関

介護保険の種目

認知症徘徊感知機器

分類コード (CCTA95)

215190 (徘徊老人監視システム)

介護テクノロジー

見守り・コミュ (施設)

二次元バーコード



解説

職員が他の作業をしていて、玄関の徘徊感知機器の音に気が付けなかった事例です。徘徊感知機器は電源直結のものもありますが、電池式の場合、いつの間にか電池が弱くなり、音が小さくなったり、ならなくなったりします。定期的な音量チェックが必要です。

参考要因

人：センサーの音量チェックができていなかった
人：騒がしい状況での作業により、機器の音が聞こえなかった
環境：まわりが騒がしかった